

Sea front

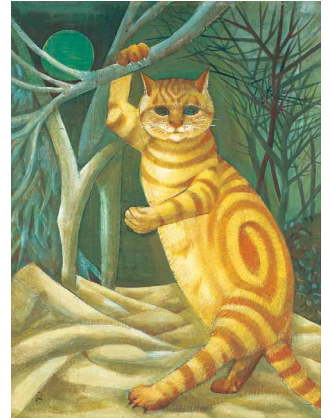
【シーフロント：海岸通り】

堀文子

Hori Fumiko
Retrospective:
Unending Journey

【一所不住・旅】展

2015.4/18(土) - 6/7(日)



《月と猫》1950年頃 個人蔵

本展は、現在もお新しい創作に打ち込む日本画家、堀文子(1918年東京生まれ)の展覧会です。堀文子は、中央大学で西洋史を教える父竹雄、母きよの三女として東京都麹町区平河町(現在の東京都千代田区)に生まれました。姉二人兄一人、第二人の六人兄弟の四番目の子であり、男性中心で序列の厳しい家庭に育った堀は、お茶の水高等女学校出の才女であった母親の影響もあり、早くから女性も自立せねばならないという考えを抱いていました。女性が自立して職業を持つことが困難であった時代、絵だけは女性にハンディのない自由な領域であると考え、父親の反対を押し切り、女子美術専門学校(現在の女子美術大学)へ入学します。在学中から、帝展や院展など権威主義的な画壇の動向に違和感を持った堀は、当時革新的な日本画を研究していた福田豊二郎(1904-1970)、吉岡堅二(1906-1990)が主導する「新日本画研究会」(1934年結成・1938年解散)「新美術人協会」(1938年結成・1947年解散)というグループの活動に共鳴し、彼らと志を同じくする仲間達と新しい日本画を追求していきました。戦後は、福田や吉岡そして東京・京都の中堅画家たち13名が結集し、設立した在野の団体「創造美術」(1948年結成~1951年)へ第1回展から出品、それにつづく「新制作協会」(1951年~1974年)「創画会」(1974年~)を活動の場とし、1999年に退会するまで同展で作品を発表しました。以降は現在に至るまで個展を中心に作品を発表しています。

作家の画業において、変わらないのは自然へのまなざしです。ごく初期の作品から、自然への畏敬、生命の不思議への感動が、従来の日本画にはない独自の表現で描かれています。自然の形象を抽象的に構成して描いた作品や、1961年に初めて西洋を旅し、旅の最後に訪れたメキシコで深い感銘を受け、その印象を独特の筆致で描いたシリーズなど、堀は次々と新しい挑戦をつづけました。1967年、50歳を目前にして都会を離れて生きることを決意し、神奈川県大磯に転居すると、画風は一変し、日本の四季や風景を澄んだ色調で描きます。さらなる自然を求めて軽井沢やイタリアのアレッツォ郊外にアトリエを構え、それぞれの土地で体感した自然を表情豊かに描きだしました。

80歳を過ぎてからも中南米やヒマラヤなど心の赴くままに各地を旅し、旅先での発見や驚きを次々と描き出しました。2001年に病に倒れますが奇跡的に回復し、その後は命の不思議に一層の関心を寄せ、微生物や海の生物などの多種多様なモチーフを題材とし、未知なる世界へと前進を続けています。

堀文子はまたすぐれた著述でも知られています。2004年から雑誌『サライ』に絵と文の連載を始め、野菜や果物、花、風景など身近の題材をみずみずしく描いた絵画と、画家が折々に想うことがらを豊かな表現で綴った文章とで構成されたこの連載は大きな反響を呼びました。老いや孤独と対峙する強さと人生を楽しむ豊かな心をあわせ持ち、真に自立した生き方を実践する堀文子の人生そのものが、選び抜かれた一つ一つの言葉に投影されているようで、読む者の心に響きます。

発見と驚きが創作の原動力と語る堀文子。本展では「群れない」「慣れない」「頼らない」を信条とし、常に新鮮な感動を求めて旅をつづけるおよそ80年の軌跡を、最新作を含む約130点の作品で紹介し、堀文子の芸術そして人間像に迫ります。堀文子の大規模な回顧展となる本展、是非この機会にご覧いただきますよう、ご来館を心よりお待ち申し上げます!

(兵庫県立美術館学芸員/飯尾由貴子)



《白山吹と雑草》2014年 個人蔵

美術館の日関連イベント

「友の会へようこそ」

2015年4月25日(土)・26日(日) 両日とも10時～15時
館内エントランスにて

HAT神戸に兵庫県立美術館が開館したのは平成14年4月のこと。これを記念して、様々なイベントが楽しめる「美術館の日」が開催されます。友の会では、入会受付ブースを出すほか、多彩な友の会の活動を展示でご紹介いたします。友の会の特設ブースにお越しの会員の方に、素敵なグッズをプレゼントします！

友の会自主企画事業 街歩き見学会

「大阪のギャラリーめぐり

— アクアライナーそしてお茶会」

2015年5月26日(火) 12:30～17:30終了予定

訪問先:アートコートギャラリー、若狭ビル内ギャラリー、新井ビル等を予定

本年度、第一弾の自主企画事業として「大阪のギャラリーめぐり」をご案内いたします。アートコートギャラリーで展示会を鑑賞後、アクアライナーに乗船し、淀屋橋に移動、若狭ビル内のギャラリーをめぐります。仕上げは、新井ビル内の「五感」のお茶会で一息ついていただきます。

新緑の美しい中、現代美術とレトロな大阪を楽しみましょう!
(友の会企画運営委員/新谷里美)

日帰りバス旅行

「兵庫陶芸美術館とその周辺に
点在する窯元めぐり」

2015年6月13日(土) 8:30集合～16:30解散(予定)

訪問先:兵庫陶芸美術館、丹波伝統工芸公園陶の郷、
点在する窯元

本年の友の会日帰りバス旅行では、丹波焼のふるさと立杭を訪ね、兵庫陶芸美術館で丹波焼の名品を鑑賞したあと、陶の郷や丹波の特徴をよく伝える“蛇窯”(=登窯、県指定)を見学します。

このあと、自由時間を設けますので、窯元を訪ねて制作場を見学するもよし、お店で買い物してもよし、丹波立杭で初夏の緑を堪能する一日を過ごしたいと思います。

平成27年度

「芸術の館友の会」総会」

2015年5月16日(土) 13:00～14:00

当館レクチャールームにて

総会は、平成27年度の友の会の運営について決定するものです。会員の皆さまからのご意見をもとに計画した27年度の事業計画案と予算案を審議します。皆様のご出席をお願いします。4/30(木)までに、同封のはがきにて出欠をお知らせください。

※4/30以降は、電話、メール、FAXにてご連絡ください。(事務局)

総会記念事業

「担当学芸員が語る今年の展示会☆予告編☆

2015年5月16日(土) 14:00(予定)

※総会終了後に開催するため変更の可能性あり

4人の学芸員が、今年の特別展の見どころや展示会の舞台裏を紹介します。是非ご参加ください。

友の会行事報告

保存修復室ツアー2014

「保存修復の現場をのぞく」

2014年12月20日(土)

13:00～15:30(参加者:24名)

16:00～18:30(参加者:21名)計45名

場所:当館保存修復室、
県美プレミアム展示室



講師:保存・修復グループ 相澤邦彦学芸員、横田直子学芸員

友の会員限定の人気ツアー「保存修復の現場をのぞく」を覗いてみた。今回は開催中の県美プレミアム「阪神・淡路大震災から20年」展の第2部主要パートともリンクしたプログラムで、保存修復と作品展示の“つながり”を具体的に見て実感することができた。美術館の展示会は華やかで楽しいが、バックヤードにはドキュメンタリーな魅力がある。「保存修復」の世界では、アート作品は顕在的又は潜在的な「患者さん」、保存・修復の仕事は「お医者さん」である、らしい。適正環境維持(温・湿度、防虫)、各種光学検査(赤外線、X線)、診断と処置、物理的・科学的保護、…何でもやり、とうとう「虫博士」にもなった横田学芸員。展示室の修復作品(鈴木清一《初秋の丘》)の前で、初期の症状、診断、修復の経緯を語る相澤学芸員はちょっと哲学的な「救急救命医」のようであった。

(安藤トシヒロ/会員)

< 心よりご冥福をお祈りいたします。 >

池内さんの突然の訃報に接し驚きと悲しみを隠せません。池内さんは美術を愛し、そして誰よりもこの美術館を愛された方でした。美術館におけるボランティア活動や友の会の役員などを通して、美術館のサポートにも力を注いでおられました。そのような時期にご一緒させていただき、優しさの中にもどこか筋の通った芯の強さを併せ持つ方だと感じたものでした。またプライベートでは、拙宅でのホームパーティにも三度ほど足を運んでいただき、それが何だったのか忘れてしまったのですが、ちょこちょこっとみんなで揃むような物を作っていたことも楽しい記憶として残っています。そのような池内さんがお持ちだった意志を我々も受け止め、この美術館を大いに盛り上げて行きたいものです。最後になりましたが、池内さんの安らかなるご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(兵庫県立美術館「芸術の館友の会」副会長/松原敏晴)

IN MY ROOM / ON THE ROAD

—私の部屋、あるいは路上にて—

開催中～7月5日(日)

常設展示室全8室を使って、キーワード「IN MY ROOM(私の部屋)」「ON THE ROAD(路上にて)」のもとに選んだ作品を展示しようというのが、今回の常設展示のねらいです。つまり、テーマから外されることが多い小磯・金山の両展示室を組み込みたいという野望があるわけですが、とはいえ、このキーワード自体に大きな意味はありません。野望が達成できればそれでいいのですから。ただ、部屋(室内)、路上(通り)というものは、近代的かつ現代的な何かを含んでいます。

外から隔てられた部屋の中では、おのずと「私」に意識が向けられます。私の内面である場合もあるでしょうし、私の肉体というか、身体そのものであったりするでしょう。また、部屋の中に私以外の誰かがいる場合、家族や友人であったとしても、それらが急に他者性を帯びて、私には理解不可能な存在として立ち現れることがあるかもしれません。さらには、私に属していると思われる身の回りの品々に慰められる時があるかと思えば、不思議な違和感にたじろいでしまうことも。

一方、路上や通りはパブリックな場である場合が多く、ここで私た



島州一《カーテン》1975年 シルクスクリーン・布

ちは自分とは無関係な他人に出会います。いや、出会うというより、そうした人々に埋没してしまいそうになりますし、私自身が何事とも無関係でよりどころもなく漂う存在であることを強く感じることもあります。反対に、ほかの人々と時間と空間を共有することで、閉じた自分から開放され、血肉化した自身を取り戻すこともあるでしょう。

こんな感じで、ご覧いただく方には、二つの言葉からいろいろな考えを派生させ、何事かを思い出したりしながら、作品を見ていただければ嬉しいです。(兵庫県立美術館学芸員／西田桐子)

美術情報センターから 〈「堀文子 一所不住・旅」展 関連図書〉

『堀文子展の図録』

今回は、2010年に神奈川県で開催された堀文子展の図録をご紹介します。

堀文子氏は96歳を迎えた今も創作を続けている日本画家で、その画業は80年にも及びます。絵本画家として活躍された方なので、堀氏の名前を知らないという方も、その絵をどこかで目にしたことがあるかもしれません。

この図録には、一見すると一人の画家の手によるものとは思えないほど様々な画風の作品が掲載されており、堀氏の美への飽くなき探求の軌跡を追うことができます。

なお、当館で4月18日から開催される展覧会では、堀氏の最新作も出品されますので、お見逃し無く。図録にもご期待ください。

美術情報センターでは、ご紹介した図録の他にも、堀氏に関連した資料を集めたコーナーを設けておりますので、是非、お立ち寄りください。



横尾忠則展 カット&ペースト 切った貼ったの大立ち回り

2015年4月18日(土)～7月20日(月・祝)

横尾忠則現代美術館

作家自ら語っているとおり、横尾作品においては「模写」と「コラージュ」が重要な要素です。横尾現美の開館記念展「反反復復」は、そのうち「模写」の極端なあり方に着目したものでした。他方の「コラージュ」もいつかとりあげたかったのですが、あらゆる横尾作品に「コラージュ」性が忍び込んでいるため、作品選択に説得力を持たせるのが難しく感じられました。

「反反復復」展では、作品が時空を超えて増殖するような感覚がありましたが、逆に今回は特定の時期に絞り込みました。'80年代末、切り裂いたキャンバスを重ね合わせた、いわゆる「多次元絵画」を追求していた横尾ですが、'90年代に入るとそれらを同一平面上に展開することで、まるで万華鏡のような華麗な作品を制作します。さらに1993～94年にはコンピューター・グラフィックが導入され、イメージは仮想空間において文字どおり過剰なまでにカット&ペーストされました。

本展では、このように「コラージュ」をめぐる造形的な実験性が先鋭化し、その展開のうえで最もドラマティックな時期のひとつである'80年代末～'90年代初めに着目することで、横尾芸術の本質に肉薄することを試みます。

(横尾忠則現代美術館学芸員／山本淳夫)



横尾忠則《見えざる助力者》1989年
作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)

近隣展覧会情報

施設名/連絡先	展覧会名	会期	休館日
横尾忠則現代美術館* ☎078-855-5607	・横尾忠則展 カット&ペスト 切った貼ったの大立ち回り	4/18(土)~7/20(月・祝)	月曜 (祝日の場合は翌日休館)
BBプラザ美術館 ☎078-802-9286	・阪神沿線の文化110年 神戸の歴史とアートの旅 -近代化の轍-	4/11(土)~6/14(日)	月曜 (祝日の場合は翌日休館) 5/4(月)は開館、5/7(木)は休館
神戸市立博物館 ☎078-391-0035	・チューリヒ美術館展 印象派からシュルレアリスムまで	開催中~5/10(日)	月曜 5/4(月・祝)、5/5(火・祝)は開館 5/11(月)~5/15(金)は展示替えにつき休館
西宮市大谷記念美術館 ☎0798-33-0164	・水墨を楽しむ-富山県水墨美術館名品選-	4/4(土)~5/10(日)	水曜 4/29(水・祝)、5/6(水・祝)は開館 4/30(木)、5/7(木)は休館
芦屋市立美術館 ☎0797-38-5432	・第63回芦屋市展 ・芦屋の歴史と文化財-祈りをささげた神さま仏さま- ・モダン芦屋クロニクル -アート、ファッション、建築からたどる芦屋の芸術-	4/4(土)~5/10(日) 4/4(土)~5/10(日) 5/23(土)~8/2(日)	月曜 (祝日の場合は翌日休館) 5/11(月)~5/22(金)は展示替えにつき休館
伊丹市立美術館 ☎072-772-7447	・誕生50周年記念ぐりとぐら展	4/11(土)~5/31(日)	月曜 (祝日の場合は翌日休館) 5/4(月)は開館、5/7(木)は休館
尼崎市総合文化センター美術ホール ☎06-6487-0806	・阪神沿線の文化110年展「歴史とアートで綴る阪神沿線あまがたり展」	5/9(土)~6/14(日)	会期中無休
兵庫県立歴史博物館* ☎079-288-9011	・<美似> the NIPPON -海洋堂のミニチュアコレクション-	4/18(土)~6/14(日)	月曜 5/4(月)は開館、5/7(木)は休館
姫路市立美術館* ☎079-222-2288	・没後30年 シャガール展 姫路城グランドオープン記念	4/4(土)~5/31(日)	月曜 (祝日の場合は翌日休館) 5/4(月)は開館
兵庫陶芸美術館* ☎079-597-3961	・青磁のいま -受け継がれた技と美 南宋から現代まで	開催中~5/24(日)	月曜 (祝日の場合は翌平日休館)
滋賀県立近代美術館 ☎077-543-2111	・江戸へようこそ! 浮世絵に描かれた子どもたち ・見つめて、シェイクスピア! -美しき装丁本と絵で見る愛の世界-	4/18(土)~6/7(日) 開催中~4/5(日)	月曜 (祝日の場合は翌日休館) 5/4(月)は開館、5/7(木)は休館

*印がついている施設では、会員証の提示で割引などの特典が受けられます。
上記の展覧会内容、休館日等は、各施設の都合により変更になる場合があります。詳しくは、各施設にお問い合わせください。

保存修復担当学芸員のお仕事!

アメリカのダラス美術館で「アクションと未知の間で:白髪一雄と元永定正」という展覧会が開かれています(7月19日まで)。作品とともに出張した相澤学芸員に、現地でのお仕事について、お聞きしました。

◆ダラスに到着したら、まず何をしますか?

2日近くかけて移動した後なので、ゆっくり休みます。シーズニング(作品を環境に慣らすため)の時間は、疲れをとるのにちょうどいいです。大型作品13点の作業は体力勝負でもあり、体調管理は重要です。

◆お休みには、何をしていましたか?

ダラス美術館をゆっくり一人の観客として見て回りました。いつもそうなのですが、どんな美術館か、収蔵品の内容や展示の様子、特別展、教育普及活動、来館者へのサービスなどをみます。ショップで買い物したり、カフェで食事をしたりもします。これが意外と作業に役立つ、現地スタッフの方ともコミュニケーションがとりやすくなります。

◆作業について教えてください。

1点ずつ開梱し、輸送前の状態とかわりがないか、事前に作成した状態記録や画像をもとに丁寧に確認します。また開梱や取扱い、展示作業についてひとつひとつ現地の作業員に指示します。特に海外への貸出の場合、作業のやり方はもちろんのこと、そもそもことばも違えば、考え方もまったく違うので、コミュニケーション(英語力という意味だけでなく)がとても大事です。

(次回につづく)



展示作業 ダラス美術館にて

友の会美術館支援事業のご報告

チャンネル5 木藤純子 Winter Bloom (2014年終了)

昨年12月、当館館内4カ所を会場として木藤の作品が展開されました。ささやかに舞う花卉が鑑賞者を非日常へと誘い込む、詩情あふれる場を作ることができたのではないかと思います。初日(6日)のアーティスト・トーク、最終日(22日)の特別展示もあわせ、多くの方にお運びいただくことができました。友の会のみならずには多方面からご支援を賜り、どうもありがとうございました。記録リーフレットを同封しますのでご覧下さい。

(兵庫県立美術館学芸員/河田亜也子)

「ミュージアムぐるっとバス関西2015」友の会カウンターにて販売

大阪・京都・滋賀・兵庫・奈良にある博物館・美術館等59館でお使いいただける無料入場券または割引券が綴られた便利なお得なバスです。

友の会では、このぐるっとバスを会員特別価格料金でご購入できます。是非合わせてご活用ください。

◎普及版(3ヶ月有効): 900円(通常価格1,000円)

◎プレミアム版(6ヶ月有効): 1,600円(通常価格1,800円)

編集後記

私事で恐縮ですが、この度3月末で友の会事務局を退職することになりました。この場をお借りして、これまで友の会を支えてくださった全ての皆様に感謝を申し上げます。2年間本当にありがとうございました。(中山)
4月より友の会で働くことになりました、宮崎恵美と申します。皆様これからどうぞよろしくお願い致します。(宮崎)

兵庫県立美術館 「芸術の館友の会」会報誌 Sea front Vol.77 2015年4月1日発行

編集・発行/
兵庫県立美術館「芸術の館友の会」事務局
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 (HAT神戸内)
TEL:078-262-0916 FAX:078-262-0903
http://www.artm.pref.hyogo.jp
E-mail:tomonokai@artm.pref.hyogo.jp